

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和7年第40週(9月29日～10月5日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	38週	39週	40週	40週	40週
インフルエンザ	0.33	0.33	0.33	0.49	1.56
新型コロナウイルス感染症	17.67	8.67	12.33	7.57	4.82
RSウイルス感染症	4.50	1.00	0	1.35	1.55
咽頭結膜熱	0.50	●3.50	●2.50	0.52	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	1.00	0	1.29	1.81
感染性胃腸炎	3.50	4.00	4.00	2.42	4.05
水痘	●3.00	0	▲1.50	0.23	0.18
手足口病	1.00	0.50	0	0.13	0.39
伝染性紅斑	●3.00	●3.50	●1.50	●3.03	1.23
突発性発疹	1.00	0	1.00	0.29	0.29
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.03	0.54
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0.05
急性出血性結膜炎				0	0.02
流行性角結膜炎				2.75	1.01
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.08	0.03
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.05
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.58	1.36
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0

急性呼吸器感染症(ARI)	48.67	42.67	43.00	63.45	58.86
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 新型コロナウイルス感染症に注意しましょう。

長崎県の第40週の報告数は386人で、定点当たり報告数は7.57でした。地区別にみると、県北地区(12.33)、対馬地区(10.67)は他の地区より多くなっています。3週続けて減少しましたが、今後も動向に注意しましょう。
本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。
長崎県では、2025年第40週にSFTS1件、日本紅斑熱2件の報告がありました。
過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

【トピックス】 管内で日本脳炎の患者が発生しました。

2025年第41週に、今年初となる日本脳炎の患者が平戸市で発生しました。本県では令和3年10月以来の患者発生となります。暑さのピークは過ぎましたが、ウイルスを媒介する蚊の活動時期は本県では秋ごろまで続きますので、蚊に刺されない対策をとることが重要です。
日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症です。人はこのウイルスをもっている蚊(主にコガタアカイエカ)に刺されることによって感染します。潜伏期間は6日から16日で、ほとんどの場合は無症状で終わりますが、発症すると数日間の高熱・頭痛・嘔吐・めまいがみられ、重症化すると意識障害・けいれん・昏睡などの症状とともに、死亡に至ることもあります。治癒した場合でも、麻痺等の重篤な後遺症が残ることもあります。
予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、市町の案内に沿って接種しましょう。任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。また、蚊に刺されないように、網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにしましょう。蚊取線香や各種の虫よけ、殺虫剤等の使用も有効です。また、外出する際は長袖などを着用し、コガタアカイエカに刺されないような工夫が大切です。
※詳細は別添プレスリリース参照



令和7年10月9日

関係各位

長崎県地域保健推進課 感染症対策担当
担当：佐々野、岩下
電話：直通 095-895-2466

日本脳炎患者の発生について

蚊(主にコガタアカイエカ)が媒介する感染症である日本脳炎の患者が、県北保健所管内で1例発生しました。

県内では令和3年10月以来の報告となります。

蚊の活動時期は、秋ごろまで続きますので、感染予防方法の周知にご協力をお願いします。

■ 概要

- 1) 発 生 地： 平戸市
- 2) 患 者： 女性（40代）
- 3) 発 病 年 月 日： 令和7年9月19日
初 診 年 月 日： 令和7年9月22日
診 断 年 月 日： 令和7年10月7日
- 4) 診 断 方 法： 日本脳炎ウイルスに対する特異的 IgM 抗体の検出
- 5) 症 状 等： 発熱、嘔吐、意識障害
- 6) その他の状況： 現在、入院中ですが、症状は回復傾向。

〔 入院機関につきましては、人権尊重及び個人情報保護の観点から、公表を差し控えます。 〕

予 防 法

■ 日本脳炎ワクチンの接種

ワクチンにより、日本脳炎の罹患リスクを75～95%減らすことができると報告されています。定期予防接種は、市町からの案内に沿って接種を受けて下さい。

任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。

■ 蚊に刺されない工夫

日本脳炎は蚊(主にコガタアカイエカ)によって媒介されるので、蚊に刺されない対策や、蚊を増やさない環境づくりが重要です

- ・コガタアカイエカは、田んぼやゆるやかな清流が主な発生源となっており、活動時間帯(夕方～夜明け)には屋外で過ごすことを避ける。
- ・戸外で過ごすときはできるだけ皮膚の露出を避ける（長袖、長ズボン等の着用）。
- ・虫除けスプレー等を活用する。
- ・網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにする。

■ 十分な休息

休養、栄養、睡眠を十分にとり、過労を避けて、免疫力を維持して発症を予防する。

1. 日本脳炎とは

日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症であり、人にはウイルスを持っている蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されることにより感染します。患者発生は西日本に多く、蚊の発生時期である夏から秋にかけて報告されています。人から人への感染はなく、また感染者を刺した蚊に刺されても感染することはありません。

潜伏期間：6～16日

症 状：数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、急激に、光への過敏症、意識障害（意識がなくなること）、けいれん等の中枢神経障害（脳の障害）を生じる

発 病 率：感染者およそ100～1,000人に1人

致 死 率：脳炎を発症した場合20～40%（幼児や高齢者では危険が高くなります）

2. 長崎県、全国の患者発生状況（人）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7※
長崎県	1	0	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	1
全 国	9	2	2	11	3	0	9	5	3	5	6	9	0

※長崎県は、令和7年10月8日現在の数値（今回の発生例を含む）

全国は、令和7年第39週（令和7年9月22日から9月28日）時点の数値

3. 日本脳炎の定期予防接種の標準的なスケジュール

第1期と第2期あわせて計4回の接種を行います。

第1期接種（計3回）	3歳のときに2回（6～28日の間隔をおく） その後おおむね1年の間隔をおいて（4歳のときに）1回
第2期接種（1回）*	9歳のときに1回

*特例措置：平成7年4月2日から平成19年4月1日までに生まれた方で20歳未満の方は、平成17～21年度に日本脳炎の予防接種を受ける機会を逃している可能性があります。母子健康手帳などをご確認いただき、合計4回の予防接種を完了していない場合は、不足回数分を無料で接種可能です。接種を希望される方はお住まいの市町の予防接種担当課までお問い合わせください。

4. 日本脳炎感染源調査について

県では日本脳炎の流行予測を目的として、毎年6月から9月の間に、日本脳炎ウイルスの増幅動物であるブタのウイルス感染状況を調査しています（ブタ10頭×8回）。

令和7年6月25日に採取したブタ10頭の検体のうち、1頭の検体から日本脳炎ウイルスに最近感染したことを示す抗体が検出されました。このため、県は、令和7年7月4日付けて、注意喚起情報をお知らせしています。

日本脳炎注意報について（長崎県）

<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/735345/>